九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[1_1]図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 : 1(1)

https://doi.org/10.15017/18931

出版情報：図書館情報. 1 (1), pp.1-6, 1965-09-10. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館月報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 1, No. 1 Sept. 1965

創刊号に寄せて

九州大学総長　遠城寺　宗　徳

大学は自ら学ぶところであります。講義や実習はその学びかたを学ぶものであるとさえいう人があります。すなわち，ひとりの研修の場は図書館でありましょう。ここに学生教育に対する図書館のもつ意義があります。研究者にとっては，自然科学，人文，社会科学の別なく，文献と資料が不可欠のものであります。この必要に対して図書館は，文献，資料を収集し,かつ,これを整備して容易に研究者の要望に応えるものでなければなりません。こういうように考えていくと，今後の図書館は書物の置き場としての単なる書庫ではなく，以上のような機能を持った図書館の発達をこそわれわれは待望しているのであります。

さいわい近時，大学の重要問題として，図書館の充実がとりあげられるようになってきたとき，わが九大図書館においても，北川館長を中心として，この方向に沿った新しい図書館の完成を目指して充実，整備へと努力されつつあることは，まことに感謝，ご同慶にたえない次第であります。そうしていま，図書館情報が創刊されることになりました。私は，わが図書館の明るい将来を祝福するとともに，大きな期待を寄せています。

巻頭のことば

九州大学附属図書館長　北川敏男

大学図書館の近代化と学術情報組織の確立という要望は，学界共通の叫び声となっています。全国の数多くの大学で，それぞれ学内に委員会をつくり，組織・運営・施設等についての改善計画をたてたり，その実行を推し進めていて，相当の成果をあげています。日本学術会議では，数多くの委員会が協同して，大学図書館の近代化に関しての５要望をとりまとめ，昨年10月，総会決議として，政府当局にその実現を強く要望しましたし，さらに本年４月には，わが国の科学研究の第１次５か年計画案の中間報告においても，共通基盤の確立強化の観点から，詳細にわたる将来計画案が発表されています。文部省においても，図書館施設基準についての委員会を設けて，精細な検討がすでに１年余にわたって続けられ，大学図書館視察員制度も設けられて近く発足することになっています。

わが九州大学においても，全学的な，いくつかの委員会がすでに設けられ，図書館商議委員会を基軸として，大学図書館の組織・運営・施設について討議をかさね，またいくつかの改善案も実施されてきました。特に九州大学の場合には，中央図書館新館の建築問題というのが，昭和28年以来の課題であります。

大学図書館というのは，中央館と，分館とを合わせたもので，学部や数室にある図書室は，これにふくまれないという考えかたは，現在では，むしろ時代遅れであるかと思われます。大学図書館の機能は，学習，研究，情報管理の三つの面から綜合的に組立てていかなければならないというのが，今日の通説のように思われます。しかし，飜って現状を省みるとき，現実には幾多のネックもあって，改善への歩みは，相当の難航をかさねているのも事実であります。相当の長期にわたる，着実な努力の積み重ねが，一方で必要なことはいうまでもないのであります。

図書館情報の発刊は，かねてからの念願でありましたが，図書館商議委員会の全会一致のご賛成を得て，今回実現をみるに至ったものであります。すでに，東大，京大，東北大等では，この種の月報が発行されています。大学図書館は，大学人のすべての方が，いつも関心をもつものでなければならないかと存じます。ここでは，いろいろのニュースが提供されるでありましょうし，また時には，いろいろの論説も寄せられるでありましょう。大学図書館は，いうまでもなく，サービス機関であり，この図書館情報の刊行も，サービス向上を目標としていることは，館員一同よく銘記しているところでありますから，その基本線に沿って進むようご支援いただきたいと存じます。

終りに，平素より図書館改善運動に深い理解をもたれ，また，特に図書館情報刊行につき，ご支援をいただいた遠城寺総長はじめ，図書館商議委員各位ならびに関係諸委員会の委員各位に対して，この機会に厚く御礼申し上げますと共に，今後とも，いろいろご指導を賜わらんことをお願いする次第であります。

◈ 学内図書館の動き

〈中央図書館〉

学生に対する貸出制度の改善—常時館外貸出しの実施— 従来の館外貸出制度が，休館日（毎月第1日，日曜日，祝祭日等）をはさんで，その前日の開館時から，その翌日の閉館時までとしていたのを，学生側からの強い要望に沿い，5月1日から次のとおりに改善，実施することにした。

1 大学院学生，一般学生への貸出冊数は各3冊以内（従来どおり），期間は，大学院学生は1ヵ月，一般学生は8日間とし，卒論作成等により，その必要が認められた者には，1ヵ月間の借覧が許可される。（ただし，夏期・冬期休暇期間中はその期間中）

2 貴重図書，特殊図書，辞書，指定図書，参考図書，未製本雑誌は，貸出しの対象から除外される。

3 申込みの手順として，まず学生は，中央図書館2階出納台で，図書貸出券（3枚）の交付を受けるため，学生証と印鑑を持参して登録手続きを済ませる。貸出券1枚につき1冊で，合計3冊まで図書資料を借りられるが，期限までに資料が返納されない場合，貸出券は没収される。貸出しの延長を希望したいときは，予約申込者のないときに限り更新できる。貸出し延長手続きは電話ででも受付ける（電話は学内内線5258)。

ゼロックスの導入による文献複写業務の開始 近年大学図書館では，情報源としての文献・資料等の複写業務が盛んになり，それにともない複写方法も，フイルム方式から電子複写方式へと進歩してきている。本館ではこのような現状と依頼者の希望を考慮して，ゼロックス914型による複写を開始するため，文部省に申請し，正式に料金の認可を得たので，4月中旬からゼロックスによる複写を開始した。6月の統計によれば，学内の複写申込の大部，学外の複写申込の約半数が，ゼロックスによる複写申込に移行し，増加を示している。防湿等の見地から用紙の保管に多少の問題はあるが，従来のフイルム方式に比し，作業が非常に簡易化されて，図書館にとっては人的に大きなプラスである。依頼者側も印画引伸に比べて安価であり，短時間で複写物を入手できる等の大きな利点があるので，申込みは，今後さらに飛躍的へ増大するものと思われる。本館に並行して，医学部分館でも同時に作業を開始している。料金はB4型1枚当り，学内25円，学外35円。

〈医学部分館〉

貸出方法の改善 従来，冊子式の「閲覧帯出証」によって行なわれていた入館および貸出手続を，今後は，入館券と図書貸出券によって行なうことにした。貸出券の交付枚数は，学生3枚，教授，助教授，講師各10枚，職員5枚。貸出の際は，図書，雑誌1冊につき，貸出券を一枚提出すればよい。ただし，未製本雑誌の場合は，所定の用紙に記入し，貸出券を提出する。貸出期間は，最新号の雑誌を除き，すべて7日間である。返却がおくれると，8日目ごとに1パンチを入れ，パンチが三つはいった貸出券は，その年度中は使用できない。

この貸出方法は，8月から開始されるが，従来の方法より，はるかに簡便であり，かつ期限超過の防止にも有効なものとして期待される。

ゼロックスによる複写サービス 中央図書館の項でも紹介されたゼロックス・サービスを，医学図書館でも，今年4月から開始して好評を得ている。ゼロックスの強みは，必要な文献の複写が，申込みをした人の目の前で，すぐ読める状態ででき上ることである。この機械を採用したことによって，学外からの申込に対しても，より早くその要求をみたすことができるようになった。料金は中央図書館の場合と同じ。

◆ 会　　議

〈中　　央〉

文部省主催「全国国立大学図書館研究集会」〈とき：昭和40年6月29日,30日　ところ：北海道大学附属図書館〉

館長，部課長，事務長約150名が出席。「大学図書館の改善について」と題し，京都大学堀江保蔵館長の講演があり，研究協議事項は，文部省から提案の「指定図書」をとり上げ，(1)1授業科目当りの指定種類数は，何種類とすれば妥当か　(2)複本数は，学生何人につき1冊とすれば妥当か　(3)1冊当り購入単価は和洋平均して何円とすれば妥当か，につき3部会に分れて研究，討議された。協議の結果，次のような結論に達した。(1)1授業科目当りの指定数は7種類　(2)複本数は学生10人につき1冊　(3)1冊当り購入単価は和洋平均1000円。

第12次全国国立大学図書館長会議　〈とき：昭和40年6月30日，7月1日　ところ：北海道大学〉

館長，部課長，事務長約150名が出席。各地区から提出された協議題は，全部で22題であったが，分類別にまとめると次のとおりである。(1)図書館長を大学評議員にすることについて。(2)図書館職員の定員増加および欠員補充について。(3)図書館維持費および夜間開館手当の増額について。(4)大学図書館実態調査について。(5)附属図書館長が任務に専念しうる方策について。(6)大学図書館事務量に対する最低職員数算定基準を得るための調査について。(7)指定図書制度の確立とその予算化について。(8)大学図書館司書業務の改善について。(9)物管法上の図書の扱いに関する研究会を設けることについて。(10)図書の不用決定ならびに廃棄の基準について。(11)司書，司書補講習の一部を，免許法認定の通信教育として実施されるよう要望することについて。

協議の結果，(2)，(3)，(4)，(7)については，文部大臣に要望書を提出することに決定した。

なお，北川九大館長の希望により，日本学術会議第43回総会資料「第1次5ヵ年計画に関する中間報告」のなかの，第3章「学術研究の共通基盤の強化拡充」（41～75ページ）に関する資料が配布され，とくに第2節「大学図書館の近代化と学術情報組織の確立」（43～57ページ）について検討を加えることになり，9月中に意見をとりまとめるよう要望された。

〈学　　内〉

附属図書館商議委員会（第66回）〈とき：昭和40年6月2日　ところ：工学部本館大会議室〉

本委員会は，図書館の運営・予算等の重要な事項を審議するため，図書館長を委員長とし,各部局から選出された教授22人で構成されている。今回のおもな審議事項は下記のとおりであった。

1　昭和39年度決算書について

中央図書館，医学部分館および教養部分館ごとに報告があり，原案どおり承認された。

2　昭和40年度実行予算案について

図書館の予算は，文部省の配当額，大学の振替経費および分館地区各部局の振替補充額がおもなものである。文部省の配当額および大学の振替経費がほぼ確定したので,中央図書館では,急ぎ実行予算案を作成して本委員会に提出，審議の結果,原案どおり承認された。

3　中央図書館の新館建築計画について

中央図書館を移転新築する構想は，昭和28年の人文・社会科学系学部の移転計画と同時にたてられ，昨年，それら学部の移転完了により，中央図書館の移転を残すだけとなった。

商議委員会においては，商議委員以外の教官等を加えた中央図書館新館建築計画委員会を設け，種々検討を進めてきたが，その結果に基づき，商議委員会としての意見・方針を最終的に調整する審議が行なわれた。商議委員会での新館建築の構想は，さらに関係機関および上部機関との連絡・調整が行なわれ，具体化されることになろう。

中央図書館新館建築計画委員会（第５回）〈とき：昭和40年６月２日　ところ：工学部本館大会議室〉

中央図書館を移転新築する構想については，図書館としては，昭和38年から検討をはじめ，学内部局の意見および文部省等の建築基準改善への動きを勘案しながら，附属図書館商議委員会の諮問的機関である本委員会において原案を検討し，本日の審議の結果を最終案として，商議委員会に答申することとなった。

九大医学図書館図書委員会(第40回）〈とき：昭和40年６月22日　ところ：医学部分館〉

さきに行なった「医学図書館利用者アンケート」の集計結果のうち，おもな事項について，図書館側としての所感の報告があった。つづいて，「学内図書館の動き」で紹介したような新貸出方法の実施方策について審議が行なわれた（この結果は，７月14日の医学部教授会においても了解された)。

〈地　　域〉

九州地区大学図書館協議会第16回総会　〈とき：昭和40年５月27日(木)～28日(金)　ところ：宮崎大学附属図書館〉

本協議会は会則にのっとり毎年１回総会を開催する。1950年に本館が第１回総会を開催，以来各県の輪番制により，県内の協議会に加入の大学図書館が当番館となって総会の運営に当ってきた。今次総会には，とくに文部省から，説田(前)情報図書館課長の出席を得て，九州地区の国公私立各大学図書館長，事務長ら約40名が参加した。本年度予算案の審議，研究発表があり，館種別部会討議，報告の後，各館から提出の承合事項の質疑応答があり，翌年度の役員館を決定して議事を終った。

九州地区医学図書館協議会（第13回）〈とき：６月25日　ところ：熊本大学医学部図書館〉

地区協議会は日本医学図書館協会の下部機構をなすもので，九州地区は，九大，久留米大，長大，熊大，鹿大の５医学図書館である。毎年，各館長，主任司書等が出席して会議を行なっている。今回のおもな協議事項は，「医学図書館員の研修を，九州地区協議会として行なうことについて」，「大学の医学図書館以外の医学情報機関（病院，研究所の図書室等）との連携をつくることについて」であった。

資料紹介

British Museum. Department of Printed Books.
General catalogue of printed books... Photolithographic edition to 1955. 263v.
（中央図書館所蔵）

British Museumについてはあらためて紹介するまでもなく，その歴史，規模，蔵書のぼう大さ（1950年代において，刊本600万冊と７万５千冊の手稿本を所蔵）において，フランスのBibliothèque nationaleとともに世界における最大の図書館の一つである。

この図書館の刊本目録の最初の刊行は，1787年にさかのぼる。その後，目録規則の制定と蔵書の増加につれて，国内，国外よりの強い要望によって，新しい計画のもとに，1881年より1905年の間に108冊，また，1931年より1954年までに予定の約200冊のうち，51冊（A-Dez）のみを刊行して中止，今回の新版にひきつがれたのである。

この新版は全巻263冊，フォリオ版（35×25cm）であって，英国らしい重厚な濃紺の装

ていのもとに，1960年 Vol. 52(Df-Din)より刊行を始めて，すでにあと数冊を残すのみとなっている。また，Vol. 1-51についても，1966年7月頃までには完結の予定であって，現在世界における図書目録としては最大のものであるといえよう。

外国の主要な図書館の蔵書目録は，単なる目録ではなくて，学問の国際性よりみて，研究者にとって欠くことの出来ない書誌的資料であり，また，現在の複写技術の進歩は，その利用価値をますます増大させることであろう。この点からみても，この新版の完備は，本学の研究者の要求に十分こたえ得るものである。

なお，この新版の記入は，アメリカのLibrary of Congressや Bibliothèque nationale の図書目録と比較して近代的ではなく，記載されたインフォメーションも，古書についてはかなり詳細であるが，全体的にみて簡単であると思われる。

◇ 解　　説 ◇

MEDLARS とはどんなものか。

今日，世界中で出版されている医学雑誌の数は約5,000種，それに記載される論文数は年間約250,000件といわれている。このようにぼう大な文献情報群の中から，いかにして求める情報をさがし出すかは，研究活動の死命を制する重要さをもつ。かくて，NLM (National Library of Medicine, U.S.A.) は1961年以来，General Electric Co. と提携して，電子計算機（Honeywell 800)を主体とする，文献探索ならびに書誌作成方式の開発に力を注いできた。これが MEDLARS (Medical Literature Analysis and Retrieval System)と呼ばれるもので，世界中の情報関係者の注目を浴びながら，着々と完成に近づきつつある。ひと口にいって，世界中で刊行される医学文献が，NLM に集められ，分析されて（件名作業），磁気テープに収められる。これまで NLM によって刊行され，今後も継続される月刊索引誌 Index Medicus の内容が，まずテープの中に（より多くの件名を与えられて），収められると考えればよい。そうして，これまで人間が Index Medicus のページを繰って行なっていた文献探索を，“機械”が，1）より広く，2）より深く，3）より速く，やることになる。（1）Index Medicus 収載の論文数は現在年間約140,000件であるが，MEDLARS では1969年には年間250,000件を収録の予定。2）Index Medicus での使用件名数は，1論文につき，平均2～3箇であるが，MEDLARS では8～10箇を与えられる。3）探索の精度を高めるために現在種々の検討が加えられており，速さの点では，機械的プロセスに至る前の段階に問題があることが，当然考えられる）

さて，このような MEDLARSのテープは，複製され，米国内のいくつかのセンター，さらに海外でも広く使われるようになる（1966年6月以降のことになろう，といわれている)。とすれば，ただこれを画期点事業として感嘆してすまされるものではない。いかにして，日本に導入し，この世紀的な情報探索方式を，日本における医学分野の情報活動の中枢に組み入れるか，ということが，極めて大きな課題であり，国家的次元でとり上げられねばならぬ問題である。現在日本医学図書館協会では，このための委員会を設け，日本における MEDLARS 体制ともいうべきものを研究しており，早晩，成案を得るはずである。

（附記：MEDLARS の他の機能として，Index Medicus をはじめとする諸書誌作成の驚異的スピードアップが特筆さるべきであるが，紙面の都合で割愛した）

❋❋ あ と が き ❋❋

本紙はようやく発刊の運びとなりましたが，創刊号は，紙面の都合で，報道記事が大部分を占め，利用者層の意見，布望を織り込むことができず，若干ひとり相撲になったきらいがあります。発刊に踏切ったとはいえ，帆船を例にとれば，まださおやろが要る段階で，万帆に風をはらんで大海に乗出すまでには至っていません。今後，号を重ねるに当って，学内の教職員各位，学生諸君の不断のご支援とご協力を期待し，また，江湖の図書館関係者のご批判を仰いで，この「図書館情報」号に一層の順風を送られるよう，編集員一同は大いに期待しています。

表紙の題字は，北川図書館長にご執筆をお願いしました。また，デザインは，文学部美学研究室の古川智次氏の作品であります。

九州大学附属図書館月報「**図書館情報**」 Vol. 1, No. 1（通巻1号）
1965年9月10日発行・発行人　船 越 惣兵衛
発行所　九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎3576・電代表 64-1101（内線）5255